

文藝春秋

文春ムック
特別編集
メディカルムック
(本体1091円+税)

この一冊で
日本の医療の最前線が
よくわかる

スーパードクター に教わる 最新治療 2024

Part III

一般疾患治療の
最前線

生活習慣病の治療を見直そう
柏市の地域包括ケアシステム
漢方と西洋医学で最善の医療
白内障は初期の老眼

不妊治療、膝・股関節疾患、甲状腺疾患、
小児外科、変形性斜頸症、歯周病など

Part II

脳・心臓・
血管治療の
最前線

アルツハイマー病治療薬の最新情報

脳卒中、脳腫瘍、パーキンソン病、
心臓弁膜症、心臓ロボット手術など

Part I

がん治療の
最前線

診療科の垣根をこえたがんチーム医療
正しいがんセカンドオピニオン
治療の最適化と予防のがんゲノム医療
手術室がない病院の低侵襲がん治療
世界をリードする重粒子線治療

肺がん、胃がん、大腸がん、前立腺がん、
乳がん、子宮がん、各種放射線治療など

高齢者施設の医療を知る

特集



堀ちえみさんの闘病

舌がんになって
言葉に救われた私

白内障手術における患者満足度

小野純治

小野眼科クリニック
院長

おの・じゅんじ 1992年順天堂大学医学部卒業、医学博士。日本眼科学会認定眼科専門医。焼津市立病院、順天堂大学病院、室蘭市立病院、順天堂大学伊豆長岡病院眼科病棟（医長）を経て、2004年2月開院。



患者の要望やライフスタイルに適った 眼内レンズを選び、乱視の治療も実施

白内障手術で用いられる眼内レンズの進化はめざましく、近年では従来の単焦点レンズに比べ、より性能のいい見え方を実現した新しいコンセプトのレンズが次々と登場している。白内障手術後の見え方は患者のQOLに直結する。満足度を高めるために留意すべきことは何か。小野眼科クリニックの小野純治医師に話を聞いた。

従来の単焦点レンズより 「よく見える」眼内レンズ

白内障手術で用いられる眼内レンズには、遠方か近方のどちらか一方に焦点があう単焦点レンズと、遠方、中間、近方に焦点があう多焦点レンズがあるが、小野医師は「近年の眼内レンズの進化はめざましく、従来の単焦点レンズよりも焦点の合う範囲が広い、遠方から中間までより自然に見える、といった様々な新レンズが登場しています」と話す。

「レンズの上半分が遠方、下半分が+1・5D加入の中間用ゾーンの扇型で、良好な遠方、中間視力を獲得しつつ不快な自覚症状を抑制し、焦点深度の拡張も期待できる『レンジイスクンフォート』（参天製薬）の他、明視域を広げる『テクニスアイハンス』（ジョンソン・エンド・ジョンソン）や『インプレス』（HOYA）といった眼内レンズに注目が集まっています。私のクリニック調べでは、通常の単焦点レンズだと（遠方に合わせた場合）9割の方が老眼鏡を必要としますが、レンジイスクンフォートでは5割の方、アイハンスでは7割の方にとどまっています。もちろん見え方には個人差がありますが、従来の単焦点レンズよりも良好な結果が出ているため、適応患者様

にはこれらを積極的に用いています」

これらのレンズは単焦点レンズ扱いのため、保険適用になるという点も患者にとってメリットとなる。

白内障手術後の見え方は、患者のQOL（生活の質）に直結する。小野医師によると、術後の満足度を高めるために大切なことが主に三つあるという。

「一つ目は、できるだけ先進の検査や手術が可能な機械を導入している施設を選ぶこと。白内障の手術は繊細な手術です。術前検査をしっかり行い、術中の過程を高い精度でサポートする手術機械（センチュリオン）や、リアルタイムで乱視軸を視認化しマーキングできる機械（ベリオン）などがあります。

二つ目として、眼内レンズは現在、性能や見え方の異なる数多くの種類が出ています。特に多焦点眼内レンズはどんな見え方を優先したいか、自身のライフスタイルに最も適したレンズを選ぶことが重要になります。さらに近年では、白内障手術を受ける患者さんの中で、レーシックを受けている方が増えてきています。レーシックを受けていると、コントラスト感度が低下し度数の誤差も出やすくなるため、多焦点眼内レンズは不向きと言われています」

したが、レーシックに特化した計算式を用いることでほぼ誤差をなくし、新しいレンズ（ヴィヴィティ）も登場したことで、単焦点と同等のコントラスト感度が得られるようになりました。そのため当院では、レーシック後の方でも多焦点眼内レンズを使用する例が増えてきています。治療前に、どんな見え方が期待できるかを担当医とよく話し合ってください。

そして三つめは、乱視矯正を的確に行うことです」

小野医師は2004年2月のクリニック開業以来、乱視矯正を伴う白内障手術（トーリック眼内レンズ手術）を1235症例実施した実績を持つ（2023年9月末まで）。

「トーリック眼内レンズは、位置だけでなく、向きも正確に挿入して初めて性能が発揮でき、最良の結果が得られます。何年経つとどれくらい乱視の度数が変化するかなど、患者様の将来を見据えて乱視の度数を決定し、積極的にトーリック眼内レンズを用いています。たとえば術前の裸眼視力が0・3だった乱視の患者さんがトーリック挿入後、矯正視力1・5まで回復した、というケースは多いです。乱視のある方は白内障と同時に的確な治療をされることをおすすめします」



大人から子どもまで、患者一人ひとりに寄り添い、地域医療に貢献している。



院長 小野 純治

おの・じゅんじ / 1992年順天堂大学医学部卒業、医学博士。日本眼科学会認定眼科専門医。焼津市立病院、順天堂大学病院、室蘭市立病院、順天堂大学伊豆長岡病院(眼科病棟医長)を経て、2004年2月開院。

医療法人社団優あい会 小野眼科クリニック

静岡県沼津市高島町8-8
TEL 055-929-1881
http://www.ono-ganka.jp



「最善の結果」にこだわり 満足度の高い眼科医療を提供

同院は2004年の開業以来、高齢者の白内障手術から小児の弱視矯正まで、目の悩みを抱える人たちに親身に寄り添ってきた。2024年には開院20周年を迎えるが、これまで以上に各々の患者にとつての「最善の結果」にこだわり、地域の眼科医療に貢献し続けていくつもりだ。



同院はJR沼津駅北口から徒歩1分と交通至便な地にあり、通勤通学の学生、社会人も通えるようにと早朝7時30分から診療を行なっている。小児の近視進行抑制や弱視矯正、コンタクトレンズ処方から高齢者の白内障手術、硝子体手術、緑内障治療まで、目の異常や病気に悩む地域の人たちに寄り添い、開業時から質の高い眼科医療を提供し続けている。中でも白内障手術と乱視矯正には注力しており、開業以来の白内障手術件数は11,264症例(トーリック乱視矯正眼内レンズ手術1235症例を含む)のぼる(2004年2月~2023年9月まで。TOPICS欄)。

小野純治院長は「患者様に対して最も心がけているのは、モニターや模型などを駆使しながら、患者様の病気の状態やどんな治療が必要かなどをわかりやすく説明し理解してもらうことです。また、多焦点眼内レンズをご希望の患者様には当院独自の間診票を用いて、どのような仕事や生活をし、どんな見え方を望んでいるかなどを詳しく聞き取り、よく相談した上でレンズの種類を決めます」と話す。

小野院長は地域の老人会で目の病気の啓蒙活動も積極的に行っている。目指しているのは「自分自身でここで受診したいと思えるクリニック」。「うちで診療を受けた結果『よく見えるようになった』『最善の結果が得られて本当によかった』と患者様に満足してもらえ、治療をこれからも提供してまいります」。

また、クリニック隣接のJY駅北コンタクトでは、乱視用や遠近両用だけでなく、円錐角膜などにも対応した適切なコンタクトレンズを提供している。2023年11月からONOMEガネはONOMEガネも開始。

JY駅北コンタクト
LINE登録
お願いします。

TOPICS

保険適用の眼内レンズで
質の高い見え方を追求

白内障手術は、術前検査や精度の高い確かなオペレーションが欠かせない。同院では適切な眼内レンズ値を算出する検査装置「OK-2001」や、術者の手元で眼内圧を調整できる「ACTIVESENTRY」、精度の高い手術を支援する「VERONイメージガイドシステム」など、先進の検査機器、手術機器をいち早く導入し高精度な手術を行っている。



眼内レンズに関しても、遠方から中間まで自然に見える「レンジスコンフォート」をはじめ、「アイハンス」「インプレス」といった明視域を拡張した眼内レンズ(いずれも保険適用)を積極的に用いてより質の高い見え方を提案。また、白内障手術後の乱視を軽減し、視力向上が期待できる乱視用眼内レンズ(トーリック)も積極的に活用し、患者の目の状態に応じた最善の治療を提供している。

治療実績数

2004年2月~2023年9月

白内障	11,264件
乱視矯正眼内レンズ	1,235件
多焦点眼内レンズ (トーリックを含む)	773件
硝子体手術	822件